

第2回しまね産業活性化戦略会議 記者レク

山根部長 それでは、私の方から本日の産業活性化戦略会議の概要について御報告をいたします。

本日の会議でございますが、冒頭、知事がごあいさつをいたしましたように、前回の委員さんから出ました議論について、その状況を中心にいたしまして、それはこういうことでこういうふうな取り組みをやっているんだということで御報告を申し上げ、御議論をいただきました。

それから、ソフト系IT産業誘致検討部会という名前で、この戦略会議の中にIT関係を専門的に議論するための部会を設けております。この第1回目の会合が本日、午前中に開かれました。この会議で検討したことを報告をし、この戦略会議で議論をしてもらったところです。

なお、このソフト系産業誘致検討部会のメンバーは、戦略委員の中から、阿多さん、本日戦略会議には御出席でございましたが、部会の方には残念ながら御欠席でございました。それから黒田さん。それと、戦略会議の委員ではありませんが、CTC、伊藤忠テクノソリューションズの菊地さんと、しまね産業振興財団のITのアドバイザー、澤田さんが部会のメンバーに入っております。そういった方で午前中、議論したところがあります。

本日の戦略会議の議論は、約3分の1が、このIT関係について議論が集中いたしました。その概要は、結果的に申し上げますと、この部会の報告でも、いわばRubyが旬であって、この今後2年ぐらいのところでその動きを島根県の方が生かせるかどうか、Rubyを活用して島根県が産業振興を図ることができるかどうかの鍵になるという、いう共通認識のもとで、Rubyをやっていくというのが、部会の報告の肝であり、そこら辺について議論が集中的にあったということでもあります。

部会で、Rubyの基本、Rubyを中心にしてやっていくということについては、おおよそ、戦略会議に参加いただいた皆さんにも、新しいことをやっけていき、化ける可能性も非常に持っているので早くやらないといかんということについて同意といたしますが、賛同いただいたのではないかとというふうに、今、考えているところでございます。

言語系の「先端技術研究機関の創設」という提案もありましたが、箱物なのか機能なのかというところで議論が若干ありまして、おおよそ皆さんの理解は、機能としてのあり方で、箱物じゃないよね、ということでは一致をしたところではありますが、若干その辺では少し、概念の整理といいたいでしょうか、そこら辺での議論はありました。

IT関係のところ絡みまして、工業団地の高速通信環境について報告をしておりますが、こういったところをきちんと整備しないといかんのではないかと、当たり前の話ですけども、高速度通信環境あるいは物流関係のアクセスを含めたインフラをやっぱりきちっとやるべきだという御意見が出てきております。

それと、戦略論というよりも、むしろ戦術論になってくるかと思えますけれども、Rubyなどで振興していく場合に、やっぱり具体的なテーマを与えて、何か具体的につくっていくと、作り込んでいくということがやっぱり早道だというふうな御議論もありました。この辺はソフト開発する上での非常に貴重な戦術論だったというふうに思っております。

議論のやりとりというのは、先ほどのIT関係のところを中心でございまして、あとはそれぞれの委員さんのお立場から、これまで言い足りなかったこと、あるいは今回初めて御出席になった委員さんもおられますので、そこら辺での御指摘がございました。

中身からいきますと、やっぱりこれからの島根が産業振興することを考える上で、夕

ーゲットとするところは、ニッチな部分を考えていかないと、非常に競争をしているところというよりは、むしろすき間のところですね、そういうところをやっぱりねらっていくべき、それが環境だとか、あるいはエネルギーというところではないかというふうな御指摘がございました。

それと、具体的なところで、我々も考えていかないといかんというような御指摘がございましたが、それはいろんなところで調査をするわけでありすけども、それらを集めた、いわばデータベースと、その他の、例えば金融とか、いろんなところが持っているデータがあるわけですし、そういったものをつないでいく、つないでいって新しいことをやっていくといったことが必要ではないかという御指摘がございまして、非常に私どもにとっては耳の痛い話でございましたけども、例えば、なかなか言ってもわかりにくいかと思いますが、地域資源がどこにあるかというのは、これはデータとしてはある。それがやっぱり必要なのは、どれくらいの量でできているのかというデータ。それと、例えば販路の方のデータ。これはいろんなところが持っていますけど、そういったものを結び、いわばコントロールタワー的な機能もあわせてやり方を、やはり本当に考えないといかんのじゃないかという御指摘でございます。いや、そのとおりだというふうに思っております。

それから、ITに絡んで、ITだけに限りませんけども、やっぱり新しいことをやってみるということが必要だということです。具体的には何かといいますと、電子マネーと、例えば観光を結びつけるとか、そういった新しい取引形態を取り込んだ産業振興、産業振興といっても新しいところじゃなくて、観光とか、そういったところの既存の産業分野です。そういったところに電子マネーとか、そういったものを、新しいものを入れて金を落としてもらおうと、新しい形で落としてもらおうという形が、やっぱり考えていく必要があるという御指摘がございました。そのことが結果的に若い人がサービス業の方に向いている若い人を獲得していくことにつながるんだというふうな御指摘がございました。

あと、農業関係もございましたけども、農業の方の御指摘もやっぱり新しいものを、高付加価値の農業をするために新しいことにチャレンジしていく、新しい切り口でやっていくということが必要だというふうな御指摘で、それを、そこら辺をやっぱり伸ばしていけば、今の生産額より、今600億ぐらいのところですか、そこが1,000億になって、すぐ到達できる可能性があるというふうな御指摘がございました。

今申し上げたような、少し、まとまりがつかないようなお話で恐縮でありますけれども、非常に具体性を持った御議論を今回していただいたというふうに考えているところでございます。

次回、3回目は11月6日に開催ということでお話をしております。

3回目につきましては、これまでの議論を私どもの方で取りまとめ、あるいはつけ加える部分もあるかもわかりませんが、活性化戦略会議の中間報告ということで御議論をいただこうというふうに思っているところであります。以上です。

何か御質問がございませうでしょうか。

記者 次回、中間報告を議論されるわけですが、中間報告そのものはいつ出るわけですか。11月6日に出すということなんですか。

山根部長 これは議論にもよるかと思いますが、取りまとめたところで、具体的なところで、これでいいやということであれば出ますし、ここら辺、もう少し議論していった方がいいということであれば少しおくれる可能性もあります。でも、中間取りまとめでありますので、できるだけ次回のところで出せるようにしたいというふうに私どもとしては思っているということです。

よろしいでしょうか、特に御質問がないようでしたら。

記者 済みません、このソフト系IT産業誘致検討部会で、さっきRubyが旬なので、今後2年間のところでそれを生かせるかが鍵というふうに言われた……。

山根部長 鍵だということです。

記者 はい。それで、その循環モデルをこういった先端技術研究機関の創設とか高度人材育成センターの創設とかという、こういう循環モデルを2年間の間にやっていくべきということ、その会議の中でも皆さんが同意されたということなんですか。

山根部長 ではなくて、この循環モデルというのは最終形の形で、この中には短期に失くちいかん問題と、少し長期的に構えてやらないといかん問題があるということです。それで、例えば短期的に、2年間のうちにやらないといかんねというのは、Rubyで、島根がRubyのいわばメッカとなるようなことを、この2年間のうちに何とか形をつくっていきたいということです。

記者 ほかに部会は設けられるんですか。IT系だけなんですか。

山根部長 そうですね、今のところ部会としてはITだけです。ですが、部会という位置づけじゃないんですけども、研究開発のところでは、島根県新産業創出プロジェクト事業化推進会議というのがあります。それから、企業誘致では、しまね地域産業活性化協議会、おとついで開催をした会議です。それと先ほど御説明した専門部会、ソフト系IT産業誘致検討部会。それと観光振興のところでは、島根県観光戦略アドバイザー会議というのがあります。さらに産業人材育成のところですが、島根県雇用対策推進会議というのがあります。この中で、ソフト系IT産業誘致検討部会を除いて、この戦略会議の部会という位置づけではしていませんけれども、いずれも民間の方々も入っていただいて、そのお知恵をおかりしながら協議、検討している組織です。ですから、戦略会議の部会としての位置づけはしていませんけれども、それぞれのところで必要に応じた民間の知恵を取り入れた組織をつくって、その具体化を図っているということです。

記者 済みません、それともう1点、ちょっとお聞きしたいんですが、この間、財政健全化基本方針のところで、知事のメッセージというところで、産業活性化雇用確保のための具体策を民間委員から成る会議で検討しているということで、10月末ごろには成案を得て地域産業の強化、県外企業の誘致、情報産業の育成、雇用拡大、ブランド化、山村振興などを推進するということがあったんですけども、この知事がそう言われている会議というのは、しまね産業活性化戦略会議のことで、11月6日に3回目で中間報告ということなんですけれども、これは10月の……。

山根部長 ちょっとずれがありますね。

記者 はい。

山根部長 ずれがありますね。ちょっと委員さん方の都合がなかなかつかないから、当初お話ししていたのは10月にもということでお話ししていたかと思いますが、それぞれの委員さんの都合がなかなかとれなくて、やむなく11月6日にずれ込んだということです。

記者 全然違うものというわけじゃない。

山根部長 一緒です。

記者 6個上げてあるんですけど、その知事のメッセージのところに。この6分野というのは、もう何か決まったことなんですか。その会議で。

山根部長 産業振興で考えられる分野ということだと思いますけどもね。

記者 今度の中間報告では、こういった6分野についての戦略が個別に書かれているということですか。

山根部長 戦略というよりは、むしろ具体的にこういうことを取り組んだらどうかという中間取りまとめです。

記者 済みません、もう1点だけ。

きょう、観光のことでは何か意見が出たんでしょうか。

山根部長 ええ、出ましたですね。先ほどちょっと申し上げましたけども、具体的なところでは、例えば電子マネーと結びつけた分とか、そういったお話が出てきておりますし、観光をやっぱりきちっとした、これはちょっと頭の整理の問題なんですけども、数値的な把握というか、付加価値額ベースできちっとつかまえて考えるべきだというふうなお話がありましたですね。何のことかわかりませんね。例えば今、経済生産で島根県2兆5,000億ぐらいありますけど、その中で例えば観光なんかも位置づけて考えると。我々のところではやっぱり600億ぐらいというふうに考えていますけども、そういった、統計ではそれ出てこないんですよ、そこら辺をきちんと数値で持った、定量的な把握をしてやりなさいよということだろうと理解していますけども。

記者 観光のところ、米子 - ソウル便の廃止について何か意見は出ましたか。

山根部長 インフラの整備のところ、きょうは米子 - ソウル便の話があるんですがで終わりです。だが、インフラが必要だねということで、特にそのことについての議論はありませんでした。

以上です。

どうもありがとうございました。